



東風

〇月〇日

『明るく伸びる子』

〇考える子 〇助け合う子 〇やりぬく子
〇じょうぶな子

【重点目標】

認め合い 支え合い 高め合う 東小の子

令和2年12月25日発行 第10号

ふれあいと喜び多い冬休みに

岩内東小学校長 齊 藤 信 之

年頭に思い描いていた世の中とは全く異なる結果となった一年が、間もなく終わろうとしています。もうじき迎える年末・年始の様相も大きく変わりそうですが、来年こそはマスクを外して笑い合い、みんなでにぎやかに過ごせる日常を取り戻せることを願うばかりです。

長らく見送っていた「参観日」を12月になってようやく実施できました。密を避け、分散するようにと2日間にわたり4時間のどこかでと幅をもたせた形で行いました。けれども、どうしても人数が多くなってしまった時間帯もあり、廊下から参観いただく姿を見かけました。細やかなお気遣いをいただいたことに感謝いたします。また、受付での手指消毒や検温、ご記名にも快くご協力いただき、ありがとうございました。

「冬休み中には、たっぷりゲームができるぞ!」と楽しみにしている子は少なくないと思います。先日、ある雑誌で「ゲーム症」という言葉を目にしました。ゲームに熱中し、やめられなくなってしまったり、時間を自分でコントロールできなくなったりして、日常や学校での生活に大きな支障をきたす疾患の一つとありました。WHOでも依存症の一つとして新たに加え、本能や感情を理性で制御できなくなってしまった状態と定義しています。さらには、退学や放校、遅刻や欠席、引きこもり、朝起きられない、昼夜逆転、授業に集中できない、物にあたる、物を壊す、人への暴力行為等に及ぶといえますから、まったく穏やかではありません。予防策として、①ゲーム・スマホの使用時間を少なくさせる②ゲーム・スマホを全く使用しない時間を作る③他の家族のスマホ使用時間も減らすなど、何をおいても家庭内でのルール作りが不可欠だそうです。加えて、リアルな生活をより豊かにし、実際にいろいろと体験することの楽しさを味わわせることが極めて大切だといえます。現実の生活の中に楽しさや幸福感を見出させることが、ゲームという仮想世界に埋没してしまうことを防ぐということなのでしょう。家族で過ごす時間が増える冬休みです。意識してゲームから離れる時間を作り出し、現実世界での楽しさにたっぷり浸らせてみてはいかがでしょうか。人には人の温もりが必要です。寄り添ってくれる、寄り添ってあげるリアルな生身の存在が必要です。ふれあうことでしか「心の安らぎ」は得られません。是非とも、子どもたちに現実世界でのふれあいや楽しさ、安心感等を実感させ、3学期に向けて心のエネルギーを充足してほしいと思います。

また、冬休みを前に学校では、学年に応じた「情報モラル」に関する指導を行いました。友だちとのトラブルの回避、使い過ぎの防止、犯罪被害に遭わないため等の観点からの指導です。お子さんを守るための家庭内でのルール作りと親御さんのチェックを、どうぞお願いいたします。

子どもたち、そしてご家族の皆さんも、健康で事故のない明るい冬休みをお過ごしください。